

令和4年度宅地建物取引士試験 解答速報

2022年10月17日11:00現在

問1	3	問11	3	問21	4	問31	1	問41	2
問2	3	問12	1	問22	3	問32	1	問42	2
問3	4	問13	1	問23	3	問33	2	問43	2
問4	1	問14	2	問24	2	問34	4	問44	4
問5	2	問15	3	問25	2	問35	4	問45	3
問6	3	問16	2	問26	2	問36	1	問46	1
問7	4	問17	3	問27	1	問37	2	問47	4
問8	3	問18	3	問28	1	問38	4	問48	4
問9	1	問19	4	問29	3	問39	4	問49	2
問10	2	問20	1	問30	3	問40	2	問50	4

TACが予想する合格基準点は、35±1点です。(10/16現在)

※次ページの講評もご覧ください(10/16現在)。

※当解答速報はTAC独自の予想であり、解答及び合格基準点を保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合も
ございます。

※この解答速報の著作権はTAC株式会社のものであり、無断転載・
転用を禁じます。

TAC 宅建士講座

令和4年度 宅地建物取引士試験 講評

【全体】

- 令和3年度の宅建士本試験と比較して、難易度は同レベルであったが、得点しやすい問題が増えたため、全体の合格ラインは少し上がると思われる。

【民法等】

- 出題の形式面では、昨年10月の本試験と同様、個数問題が出題され、問1で判決文型の出題がなされた。
- 出題されたことのない分野からの出題が目立ったが、常識的に考えれば正解にたどり着く問題も少なくなく、多くの受験生は答えを導くのが難しくなかったようである。民法等全体の合格ラインは、例年程度と思われる。
- 合格ラインは7点程度。

【宅建業法】

- 難易度は、昨年とほぼ同様。
- 個数問題は例年と同様に5問。組合せ問題は出題されなかった。
- 重要事項の説明対象で判断に迷う出題があった。
- 合格ラインは17点程度。

【法令上の制限】

- 基本・応用論点や難問を中心とした「主要6法令」からの出題であった。
- 建築基準法2問のうち1問は、過去問にない未出題論点があり、解答が困難であったと思われる。
- 宅地造成等規制法・農地法の選択肢には、過去問にない論点が散見された。
- 土地区画整理法は、難しい選択肢もあったが、正解肢が易しかったので、解答できたと思われる。
- 個数・組合せ問題は出題されなかった。
- 合格ラインは5点程度。

【その他関連知識】

- 問23～25のうち、税法2問（印紙税・固定資産税）は細かな論点の選択肢もあったが、準備をしっかりとっていた受験生は、正解を絞り込めたと推測される。地価公示法は、ほとんどの受験生が正解できたであろう。
- 問46～50は、昨年より判断が難しい選択肢が散見されたものの、解答は消去法などにより絞り込みは比較的し易かった。4問の正解は確保したい。
- 8問トータルで見ると、例年とほぼ同じで点数は取りやすかった。
- 合格ラインは6点程度。

以上